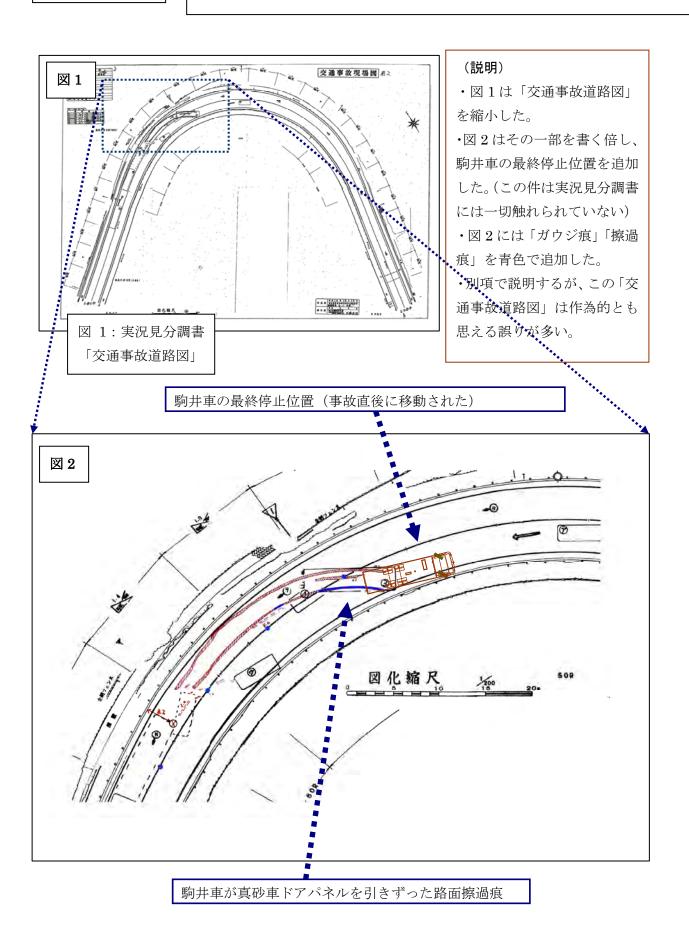
# 資料 75:「道路面に新たな擦過痕」

#### (資料 75 の説明)

- ① 実況見分調書に記載されている「擦過痕」には、三通りある。この三通りを「擦過痕①② ③」とする。本資料 75 はこの何れにも該当しない新たな痕跡である。
- ② 「擦過痕①」=実況見分調書本文 10 頁「エ 衝突の認定」にある『金属のようなものによる擦過痕」』(添付写真  $7\sim10$ : 通し No  $16\sim19$ ) を真砂車のセンターラインオーバーの根拠とした。
- ③ 「擦過痕②」= (添付写真 11~14:通し No 20~23) は「同葉に同じ」と記載
- ④ 「擦過痕③」= (添付写真 15~18: No 24~27) は「路面擦過 タイヤ痕の状況」とのみ 記載されている。
- ⑤ 「資料 75」の「新たな擦過痕」は実況見分調書では認識されていない痕跡である。(他の 擦過痕と区別する意味で「擦過痕④」とする)
- ⑥ 資料 75-1 は実況見分調書の交通事故道路図に駒井車の最終停止位置、及び「擦過痕③」の 修正(甲 24 号証:資料 74)及び上記「擦過痕④」を追加した。
- ⑦ 資料 75-2・3 の写真 1~4 から、駒井車の前輪タイヤ痕の軌跡上に白い引きずり痕跡が確認できる。駒井車がセンターラインを通過から停止するまで続きその長さは約 7mである。
- ⑧ 資料 75-4 の写真 5~6 に脱落した真砂車の右前ドアパネルを駒井車前輪が押し潰している 状態が確認できる。
- ⑨ 写真 7~11 は真砂車の右前ドアパネルの状態を示す。ドアパネルには約 25cm 幅のタイヤで轢かれ、引きずられた状態が確認できる。
- ⑩ 資料 75-6 の写真 12・13 はドアパネルの内側(運転席側)の状態を示す。この面には黒々をしたゴム質の痕跡が確認され、駒井車のタイヤ痕跡と推定できる。
- ① 資料 75-7 では①②でドアパネルが駒井車との衝突で押し込まれ、③④で湾曲しながらドアパネル裏側に駒井車のタイヤが接触する状態を示す。⑤ではドアパネルは駒井車の車体内に巻き込まれ、駒井車右前輪で轢かれ、引きずられながら路面に擦過痕を形成する。
- ② この現象は飯能署が認定した衝突形態では発生することはあり得ない。原告の主張する衝突形態でのみ発生する。

### 「交通事故道路図」とドアパネルを引きずった路面擦過痕

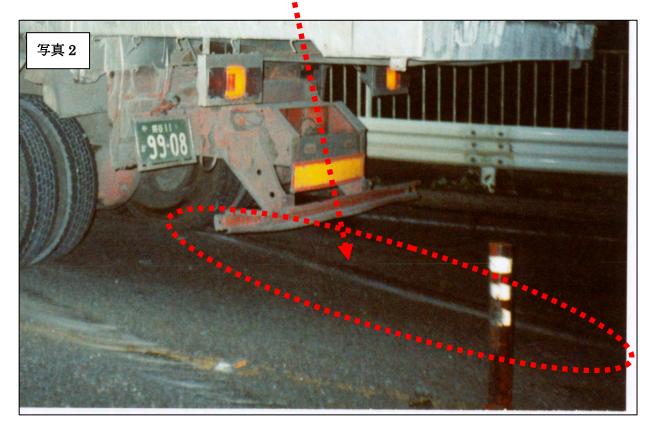


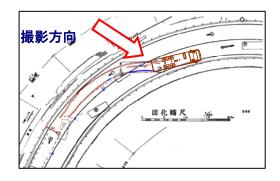
# 資料 75-2

## ドアパネルを引きずった路面擦過痕(1)



写真 1: 実況見分調書 添付 写真(37頁-36番:通しNo45)





#### (説明)

「写真 1」は実況見分調書の添付写真である。写真 2 はその部分を拡大した。

駒井車の最終停止位置は、事故直後に約7m 日高方向に移動されているため、赤丸内のタイヤ痕及び擦過痕は「前輪の軌跡」にあたる。 ※この擦過痕は実況見分調書では全く触れられていない。

# ドアパネルを引きずった路面擦過痕(2)

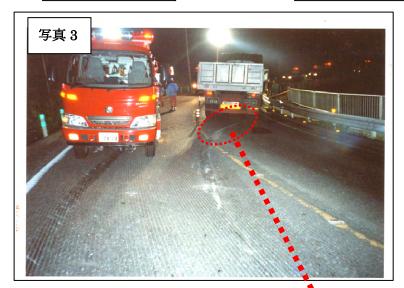


写真 3:実況見分調書 添付 写真(27頁-16番:通しNo25)





#### (説明)

「写真3」は実況見分調書の添付写真。写真4は その部分を拡大した。

赤丸内の痕跡は、前輪タイヤ痕と白く見える「擦 過痕」は重なっている。前頁の写真 4 と併せて考 えると擦過痕は約 7mの長さと考えられる。

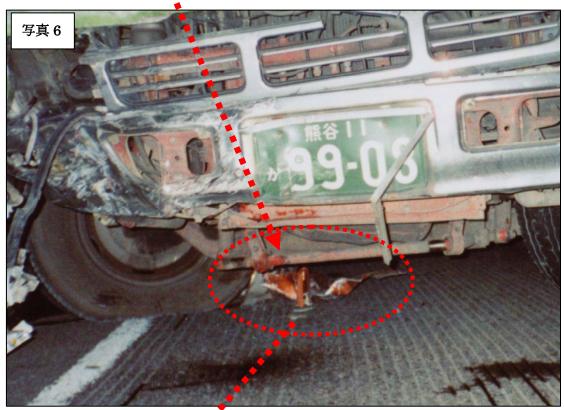
## 資料 75-4

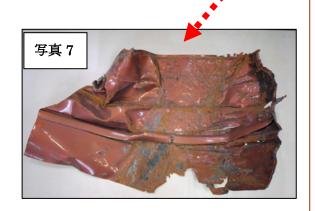
### 駒井車が巻き込んだ右ドアパネル



写真 5:実況見分調書 添付写 真 (25 頁-32 番:通し No40)





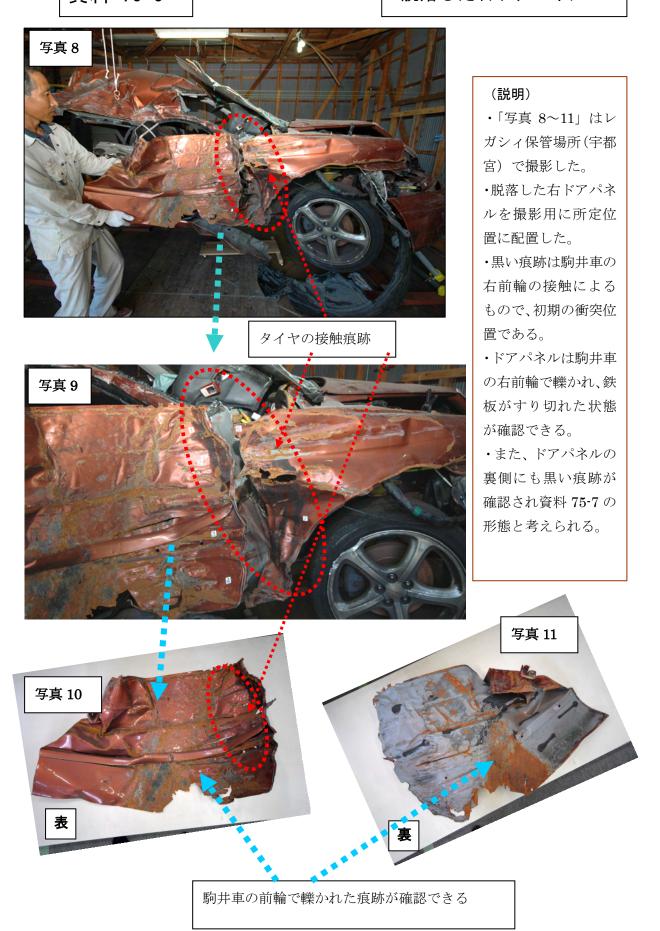


#### (説明)

「写真 5」は実況見分調書の添付写真。写真 6 はその部分を拡大した。

赤丸内は、レガシィ右前ドアのパネルである。駒井車との一次衝突で脱落し、駒井車の車体下 (タイヤハウス) に巻き込まれ、右前輪で轢かれ、路面に擦過痕を残した。「パネル」には駒井車の右前輪で轢かれた痕跡が確認できる。

### 脱落した右ドアパネル



## 右ドアパネルの裏側にタイヤの痕跡





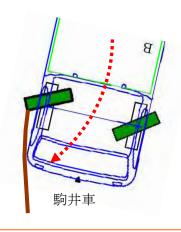
#### (説明)

- ・写真12・13にはドアパネルの裏側にも黒々としたタイヤの接触痕跡が確認できる。
- ・駒井車の右前輪がドアパネルを剥ぎ取り脱落させたと考えられる。( $\underline{co現象は飯能</u> 圏の認定した「衝突形態<math>\underline{B}$ 」ではあり得ない。)

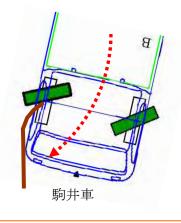
#### ドアパネル脱落までの模式図



①: 駒井車の右角がドアパネルに接触し押し込む



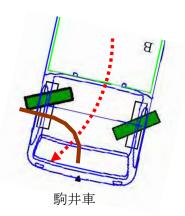
②: 駒井車が食い込み、右前輪がドアパネルに接触



③:ドアパネルを剥ぎ取るように駒井 車が進行



④:ドアパネルを湾曲させながら進行(ドアパネル裏側にタイヤの接触痕跡)



(5): ドアパネルを剥ぎ取り、車体下(タイヤハウス)に巻き込む。更に右前輪で引きずりながら路面に擦過痕を形成する。